

見えます! 風が、空港が

熱い心でラストスパート・大館能代空港

第六次空港整備五カ年計画に大館能代空港建設が組み入れられるかどうか。今年の秋にも閣議決定が見込まれることから、空港実現に向けての運動は今まさに正念場。七月三十一日、東京で空港早期実現中央大会が開催されました。

見込みがなければ

視察はしない

中央大会が開催されたのは昨年、続いて二回目のことですが、国の空港整備計画はいよいよ大詰めを迎えます。今大会はこれまでの実現運動、陳情活動がラストスパートに入ったことを意味することもあって、会場は詰め掛けた県北在住者や在京の人たち、そして県や期成同盟会関係者など約五百人の熱い期待で

うめつくされました。

大会では、まず佐々木県知事、同盟会会長の能代市長があいさつ。これまでの運動からして、これからの地元で、これからの地元の十分な支援体制は得られること、高速交通空

白地帯の解消は住民の悲願であることなどを挙げて、計画への組み入れを強く要望するとともに、今後さらに陳情等地元での熱意を示していくことの重要性を述べました。



最大限の努力を約束する村岡運輸大臣

続いて来賓を代表して、村岡兼造運輸大臣をはじめ、自民党政務調査会航空対策特別委員会の代議士の皆さん、そして県選出の野呂田芳成氏、佐藤敬夫氏、二田孝治氏から祝辞がありました。その中で、県選出の村岡運輸大臣は「見込みがない所であれば視察はしませんでした。問題点もありますが、空港実現に向けては今第三コーナーに入ったといえます。皆さんの意を十分酌みとり、最大限の努力をします」と述べ、会場に割れんばかり

意見発表で空港実現を訴える成田組合長



の拍手がわき起こりました。

21世紀へ羽ばたけ

大館能代空港

大会では、大館市農協の成田昇組合長、東京農工大学の赤坂侑子氏、能代市へ進出した企業代表の芝崎一郎氏の三人が意見発表をしました。フライト農業への期待、ふるさとをより近くという悲願、観光・物産に恵まれ航空需要は伸びるなど、それぞれが空港実現を熱い口調で訴えました。

大会終了後は、佐々木知事を先頭とする代表者が運輸省と航空三社等へ陳情に向き、今大会での盛り上がりもそのまま伝えてきました。二十一世紀に向けて空港実現はみんなの願い。熱い心をも一つにもうひと押しです。

市立総合病院 機構改正

市立総合病院の事務局組織を八月一日付で改正しました。

これまでの二課一室四係が二課一室七係になり、係が三つ増えました。これは、係を増やして仕事も細かく分けることで患者さんに一層便利なるようにすること、関連のある仕事を組み合わせること、効率化を図ろうというものです。

今後の経営改善、サービス向上に向けた機構改正です。よろしくご理解、ご協力ください。

〈改正の内容〉

これまでの事務局組織は、総務課(庶務係・業務係)、出納室(出納係)、医事課(医事係)でした。これを次のように改正しました。

▽総務課・庶務係、職員係、施設係

▽出納室・出納係

▽医事課・医業係、外来係、入院係 (2課1室7係)

☑ 八月一日付で教育委員会内の課名が変わりましたのでお知らせします。

社会教育課 → 生涯学習課